

平成 29 年度島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証について（報告）

（市長戦略部戦略推進課）

1 取組

- ・平成 27 年度に策定した「島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、「総合戦略」）」の着実な推進を図るため、事業評価、検証を行い、必要に応じて総合戦略を改訂するという一連のサイクルを実施する。（PDCA サイクル）
- ・この PDCA サイクルについては、行政による自己評価だけでなく、産官学金労言の代表者に参画いただいている「島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」や市内金融機関代表者と組織している「島田市まち・ひと・しごと創生金融機関会議」で外部評価を行い、評価の妥当性、客観性を担保したうえで、施策の見直しや改善を行い、総合戦略の実効性を高めていく。

2 評価方法（PDCA サイクル）

項目	内容
P（プラン）	島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（H27～H31 5 年間） ・施策の目標 6 項目 ・重要業績評価指標（KPI）25 項目
D（実行）	施策・事業の実施
C（評価・検証・報告）	①行政による自己評価 ②①に対する外部評価・検証 ・島田市まち・ひと・しごと創生市民会議 ・島田市まち・ひと・しごと創生金融機関会議 ③①、②の評価・検証結果を島田市議会へ報告
A（見直し・改訂）	・評価結果に基づき、施策の見直し・改善、新規施策等に反映

3 行政による自己評価・検証結果

- ・平成 28 年度末の実績値から、進捗状況は緩やかとなったが、基準値及び前年度実績値と比較し、着実に実績は伸びており、2 年目としては成果が現われていると考えられることから、引き続き、総合戦略に掲げられている基本目標の達成に向けて、各取組を推進していく。
ただし、今後、各項目の進捗状況の推移に応じて、目標値及び取組内容等の改訂について検討していく。

4 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議等による外部評価・検証結果

(1) 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議での評価・検証結果

開催日 : 平成 29 年 8 月 22 日

評価検証結果 : 引き続き、総合戦略に掲げられた目標値達成に向け、積極的に取り組んでいくこと

主な意見 : 「外部評価・検証における主な意見」のとおり

(2) 島田市まち・ひと・しごと創生金融機関会議での評価・検証結果

開催日 : 平成 29 年 8 月 18 日

評価検証結果 : 引き続き、総合戦略に掲げられた目標値達成に向け、積極的に取り組んでいくこと

主な意見 : 「外部評価・検証における主な意見」のとおり

「外部評価・検証における主な意見」

会議名	意見
島田市まち・ひと・しごと創生市民会議	<p>「豊かな心を持った子供を育成する」の施策中、指標としている「学校が楽しい児童」の実績値が約 90%ある。将来的に考えると、今の子どもが島田市にずっと住んでくれるという可能性が秘められていると感じた。</p> <p>基本目標 3 の評価は、下がっているものが多いが、実感としては、そんなにマイナスのイメージは無い。マイナスの評価をプラスにするため何とかしようとする視点よりも評価が高いところを伸ばしていくことが、「島田らしさ」に繋がり、その「島田らしさ」を認識することで、より盛り上がっていくと思う。</p> <p>子育てに関して言えば、ことば療法士を配置したり、退職教員が子育て応援課の相談業務を担当したり、相談に関して力を入れている。これは、評価の数値には出てこないが、人的配置により相談業務が充実してきている。</p> <p>県内から県外に就職した学生対象のアンケート結果によると、場所も大切だが、仕事内容で選ぶ学生が多い。加えて子どもが産まれてから地元に戻ってきたいですかとの問いについては、多くが親と協力しながら子育てしたい、共働きで生活していきたいが多い。子育て支援を充実させれば人が集まると思う。</p> <p>授業の一環で人口増減について調べた時、人口の増加が著しい県は沖縄県であった。理由の 1 つ目は子育てのしやすさ、2 つ目は観光に来てそのまま定住であった。このことは、島田市にも通じるものがあり、子育て支援の充実、観光資源が豊富など、もっと島田市を知ってもらうことが大切であると思う。</p>
島田市まち・ひと・しごと創生金融機関会議	<p>評価について、前年度実績等との比較で上回ったもの、下回ったものがあるが、特に大きな乖離があった項目は、なぜそうなったのかなど要因を掴み、対応、改善を図っていくことが重要。</p> <p>他市の総合戦略の評価・検証の会議にも参加したことがあるが、島田市の方がより具体的に評価・検証を行っているという印象を持った。地方創生に向けて金融機関として協力できることがあれば積極的に取り組みたい。</p> <p>川根のパラグライダーや有機抹茶アイスなど、最近、各種メディアにおいて、島田市のことが取り上げられているものを見る機会が増えてきている実感がある。施策の効果が出ているのではないか。自分たちの取引先と市内企業とのマッチング機会を創出し、地域経済の活性化に繋げていきたい。</p> <p>市の主要事業、取組を聞き、地方創生に向けて大変工夫をされて、事業に取り組んでいると感じた。数値として現われにくい項目もあるかと思うが、取組を継続していくことが重要。</p> <p>総合戦略評価書については、大変細かく説明があり、具体的で参考になった。「旧金谷中跡地活用」及び「島田金谷 IC 周辺整備事業」については、金融機関としても積極的に関与し、地域経済活性化に貢献していきたいと考える。</p>

5 外部評価・検証結果を踏まえた今後の対応

- ・総合戦略に掲げている目標値、取組及び内容等の改訂は行わず、引き続き、各取組を推進していく。ただし、今後、各項目の進捗状況の推移に応じて、目標値及び取組内容等の改訂を検討していく。
- ・外部評価の中で出された意見や指摘事項を庁内で共有し、目標達成に向け効果的な事業、施策に繋げていく。

平成 29 年度
島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略
評価書

平成 29 年 9 月作成

島田市

目 次

総合戦略の評価・検証について（PDCA サイクルの確立）	1
平成 29 年度総合戦略評価・検証結果（行政による自己評価）	2・3
平成 29 年度総合戦略重要業績評価指標（KPI）実績値及び評価一覧表	4・5

【資料】総合戦略の進捗管理表	7
総合戦略達成状況の評価区分について	8・9
総合戦略達成状況確認表	【基本目標 1】 10・11
	【基本目標 2】 12・13
	【基本目標 3】 14・15
	【基本目標 4】 16・17

1 取組内容

- ・平成 27 年度に策定した「島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の着実な推進を図るため、事業評価・検証を行い、必要に応じて総合戦略を改訂するという一連のサイクルを実施する。（PDCA サイクル）
- ・市議会をはじめ、産官学金労言の代表者に参画いただいている「島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」や市内金融機関代表者と組織している「島田市まち・ひと・しごと創生金融機関会議」で外部評価を行い、評価の妥当性、客観性を担保したうえで、施策の見直しや改善を行い、総合戦略の実効性を高めていく。

2 評価方法

- P（プラン）：総合戦略（H27～H31 5年間）
 施策の目標 6 項目
 重要業績評価指標（KPI）25 項目
- D（計画の実施）：施策、事業の実施
- C（評価）：①自己評価
 行政（事業所管課等）による評価、分析
- ②外部評価
 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議（年 2 回 8、3 月開催予定）
 島田市まち・ひと・しごと創生金融機関会議（ " " ）
 議会への報告（9月）
- A（見直し・改訂）：評価結果に基づき、施策の重点化、改善、新規施策等、施策展開に反映
- ↓
- 評価結果のとりまとめ、公表

3 スケジュール（予定）

時期	項目	概要
～6月	自己評価（行政による評価、分析）	事業担当課による平成 28 年度実施事業の評価、数値目標、KPI による検証、とりまとめ
7月	創生推進本部幹事会（7/21）	事業担当課による評価、とりまとめ結果の確認
8月	創生推進本部会議（8/8）	※創生推進本部会議は、部長会議、庁議の一部で開催
8月	第 1 回 金融機関会議（8/18） 第 1 回 市民会議（8/22）	・外部評価（行政による自己評価結果の検証） ・まち・ひと・しごと創生に関する施策の情報交換
9月	市議会への報告（9/29）	行政による自己評価結果、外部評価結果の議会への報告
10月	評価結果の施策への反映	次年度予算、施策等への反映 （事業の重点化、改善、総合戦略の見直し、改訂）
2月	創生推進本部幹事会 創生推進本部会議	当年度事業実施状況、次年度予算、取組内容の報告
3月	第 2 回 金融機関会議 第 2 回 市民会議	・当年度事業実施状況、次年度予算、取組内容の報告 ・まち・ひと・しごと創生に関する施策の情報交換

平成 29 年度

島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価・検証結果(行政による自己評価)

□総合戦略全体の評価を踏まえた今後の取組及び方向性

平成 28 年度末の実績値から、進捗状況は緩やかとなったが、基準値及び前年度実績値と比較し、着実に実績は伸びており、2 年目としては成果が現われていると考えられることから、引き続き、総合戦略に掲げられている基本目標の達成に向けて、各取組を推進していく。

ただし、今後、各項目の進捗状況の推移に応じて、目標値及び取組内容等の改訂について検討していく。

□基本目標ごとの評価と今後の施策展開

●基本目標1 「日本で、世界で、稼ぐ産業の創出」(全 12 項目)

基準値から平成 28 年度実績値の推移	上回るもの	10 項目 (83.3%)
	変動がないもの	0 項目 (0%)
	下回るもの	2 項目 (16.7%)

基準値からの推移において、全体の 80%以上が目標値に向かって着実に推移していることから、今後も引き続き各取組を推進していく。

なお、観光交流客数については、基準値を下回っているが、蓬莱橋における物産販売施設兼休憩所及び観光トイレ、観光案内所機能を併せ持った一体的な施設の整備を推進するなど、観光交流客数の増加を図っていく。

●基本目標2 「島田市に住み、好きになる」(全 4 項目)

基準値から平成 28 年度実績値の推移	上回るもの	3 項目 (75.0%)
	変動がないもの	0 項目 (0%)
	下回るもの	1 項目 (25.0%)

基準値からの推移において、全体の 75%が目標値に向かって着実に推移していることから、今後も引き続き各取組を推進していく。

なお、「島田市が好きな市民の割合」については、若干、基準値を下回っているが、概ね 70%近くの市民は、「島田市が好き」ということでもあり、今後も引き続き、各取組を進めていく。

●基本目標3 「希望どおり結婚、妊娠、出産し、子どもをまんやかに子育てする」(全7項目)

基準値から平成28年度実績値への推移	上回るもの	2項目(28.6%)
	変動がないもの	0項目(0%)
	下回るもの	4項目(57.1%)
	評価なし	1項目(14.3%)

基準値から上昇となっている「学校が楽しい児童・生徒」については、ここ2年の平均でも、概ね90%となっており、今後も取組を継続させていく。

基準値を下回る項目が、4項目(全体の約57%)となったが、新規保育所の開園等、目標達成に向けた施策の展開、改善に向けた対応を図っている。

●基本目標4 「水と緑に囲まれた健康長寿の暮らしやすいまちづくり」(全8項目)

基準値から平成28年度実績値への推移	上回るもの	5項目(62.5%)
	変動がないもの	1項目(12.5%)
	下回るもの	2項目(25.0%)

基準値からの推移において、上回るもの、変動がないものの項目が6項目あり、全体の75%を占めていることから、順調に推移していると考えられる。

「島田市の住みごこちがよいと感じる市民の割合」は、基準値よりも下がっているが、80%を超える市民が住みごこちがよいと感じており、引き続き、目標達成に向けた取組を推進していく。

平成29年度島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重要業績評価指標 (KPI) 実績値及び評価一覧表

基本目標	主な施策	指標	基準値	目標値	H27実績値	H28実績値	基準値との比較	評価	前年度実績との比較	評価	年度別実績値の推移 折れ線グラフ：基準値から目標値への推移 棒グラフ：年度別実績値	
1 日本で、世界で、 稼ぐ産業の創出	1人あたり市民所得 (県民所得との比率)		94.53%	100%	95.55%	94.69%	0.16%	↑	△ 0.87%	↓		
	市内総生産額		3,462億円	3,662億円	3,451億円	3,406億円	△ 56億円	↓	△ 45億円	↓		
	1-ア 高速交通網の拠点で稼ぐ	新規企業立地件数	0件	11件	5件	7件	7件	↑	2件	↑		
	1-イ まちの魅力を活かして、観光で稼ぐ	観光交流客数(年間)	276万人	300万人	236万人	239万人	△ 37万人	↓	3万人	↑		
		宿泊者数(年間)	142,199人	148,000人	183,901人	197,350人	55,151人	↑	13,449人	↑		
	1-ウ 新たな付加価値による農林業で稼ぐ	新規青年就農者数	2人	7人	3人	7人	5人	↑	4人	↑		
		担い手への農地集積率	38.2%	67.0%	38.4%	39.8%	1.6%	↑	1.4%	↑		
		認定農業者数	388人	450人	392人	391人	3人	↑	△ 1人	↓		
		森林間伐面積(年間)	83.4ha	145.0ha	64.8ha	122.7ha	39.3ha	↑	57.9ha	↑		
	1-エ 地域産業の競争力を高めて稼ぐ	新規創業者数	0人	20人	4人	19人	19人	↑	15人	↑		
		販路開拓支援件数	0件	500件	107件	287件	287件	↑	180件	↑		
		中心市街地(本通二丁目交差点)の1日当たり歩行者数	1,992人	2,100人	1,985人	2,008人	16人	↑	23人	↑		
	2 島田市に住み、好きになる	社会移動		△ 71人	0人	△ 63人	17人	88人	↑	80人	↑	
		島田市が好きな市民の割合 (地方創生に関するアンケート調査(18歳以上)) (H28実績値20歳以上)		72.4%	90.0%	72.4%	68.0%	△ 4.40%	↓	△ 4.40%	↓	
		2-ア 移住・定住の促進	移住・定住相談窓口を利用した県外からの移住件数	0件	100件	3件	31件	31件	↑	28件	↑	
2-イ シティプロモーションによるまちの魅力創造		市民幸福度の向上 (「島田市総合計画市民意識調査」)	6.3点	7.0点	6.4点	6.4点	0.1点	↑	0.0点	→		

平成29年度島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重要業績評価指標 (KPI) 実績値及び評価一覧表

基本目標	主な施策	指標	基準値	目標値	H27実績値	H28実績値	基準値との比較	評価	前年度実績との比較	評価	年度別実績値の推移 折れ線グラフ：基準値から目標値への推移 棒グラフ：年度別実績値
3 希望どおり結婚、妊娠、出産し、子どもをまんなかに子育てする	合計特殊出生率		1.51%	1.60%	-	-	-		-		
	3-ア 出逢い、恋して、結婚する	婚姻率（人口千人当たり）	4.63人	5.00人	4.11人	3.87人	△ 0.76人	↓	△ 0.24人	↓	
	3-イ 妊娠、出産する	妊娠11週までに妊娠届けをした妊婦の割合	95.8%	98.0%	95.1%	94.2%	△ 1.6%	↓	△ 0.9%	↓	
	3-ウ 子どもをまんなかに子育てする	保育所等の待機児童数	4人	0人	11人	27人	23人	↓	16人	↓	
		放課後児童クラブの待機児童数	0人	0人	3人	31人	31人	↓	28人	↓	
	3-エ 豊かな心をもった子どもを育成する	学校が楽しい児童（市内小中学校が行う学校評価データ）	89.0%	95.0%	91.0%	90.0%	1.0%	↑	△ 1.0%	↓	
学校が楽しい生徒（市内小中学校が行う学校評価データ）		86.0%	90.0%	90.0%	88.0%	2.0%	↑	△ 2.0%	↓		
4 水と緑に囲まれた健康長寿の暮らしやすいまちづくり	島田市の住みごこちがよいと感じる市民の割合		84.6%	90.0%	84.9%	84.1%	△ 0.5%	↓	△ 0.8%	↓	
	4-ア 健康長寿の促進	お達者度（男性）	10位	1位	11位	8位	2位	↑	3位	↑	
		お達者度（女性）	6位	1位	6位	6位	0位	→	0位	→	
		健幸マイレージに取り組んだ人数	329人	2,000人	713人	755人	426人	↑	42人	↑	
	4-イ 地域包括ケアの推進	居場所づくり事業実施箇所数	10箇所	60箇所	18箇所	23箇所	13箇所	↑	5箇所	↑	
		地域高齢者見守りネットワークづくりの協力事業所数	63事業所	164事業所	97事業所	108	45事業所	↑	11事業所	↑	
在宅看取り者数（在宅死亡者数（率））		18.8%	20.0%	17.7%	19.2%	0.4%	↑	1.5%	↑		
4-ウ 住民生活を支える公共交通基盤の整備	コミュニティバス利用者数（年間）	369,957人	370,000人	379,717人	256,865人	△113,092人	↓	△122,852人	↓		

【評価】
 ●基準値とH28末実績値との比較
 上回るもの：20項目（64.5%） 変動がないもの：1項目（3.2%） 下回るもの：9項目（29.0%） 評価なし：1項目（3.2%）
 ●前年度（H27末実績）との比較
 上回るもの：16項目（51.6%） 変動がないもの：2項目（6.5%） 下回るもの：11項目（35.5%） 評価なし：2項目（6.5%）

平成 29 年度
島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略
進捗管理表

【資料】

平成 29 年 9 月作成

島田市

島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗管理について

1 進捗管理表について

平成 28 年度実績等の最新値に基づく総合戦略に掲げる施策の目標の推移や、具体的な施策ごとの重要業績評価指標（KPI）の達成状況、本年度の取組や今後の施策展開等を取りまとめたものです。

2 評価方法について

達成率については、静岡県の「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生総合戦略」の評価手法を参考に、以下により、評価を行っている。これは、計画期間の5年の中では、年による進捗の差が考えられるため、期待値の推移（達成率※平成 28 年度評価では 40%）に対して±30%の幅をもたせているものです。

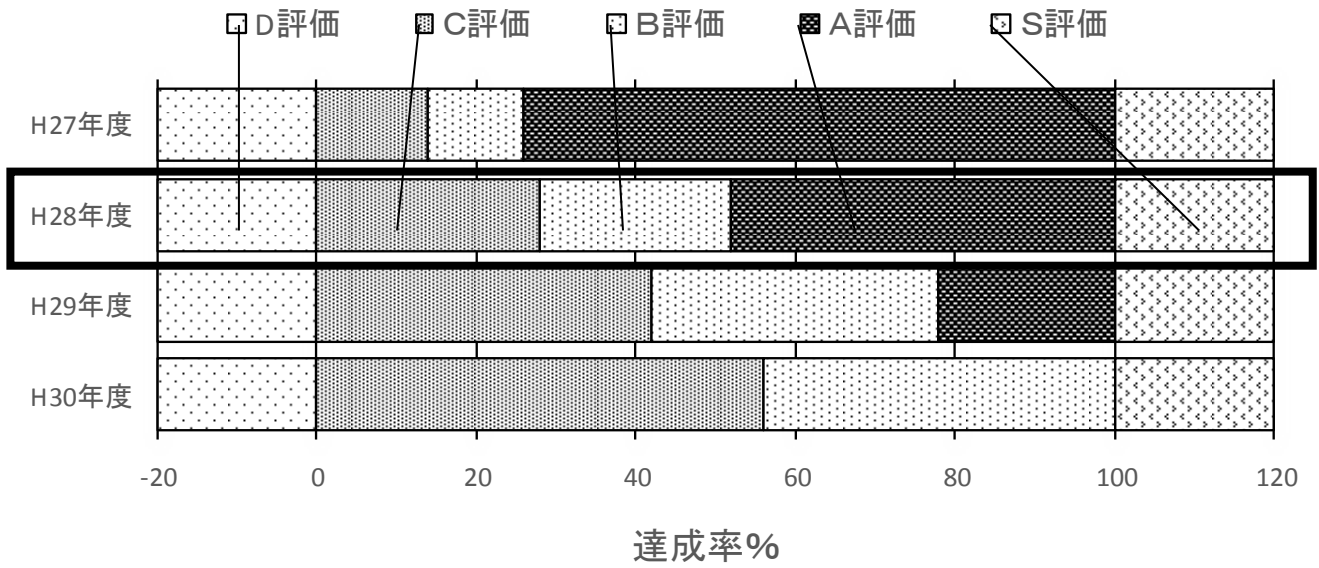
なお、平成 27 年度評価においては、A～Dの4段階評価であったため、比較ができるようS～Dの5段階で再評価を行っています。

《評価区分》

区分	評価基準
S 【100%≦達成率】	「実績値」が現時点で「目標値」を達成しているが、今後もさらなる取組が必要なもの
A 【52%<達成率<100%】	「実績値」が「期待値」の推移の+30%超え～「目標値」未満のもの
B 【28%≦達成率≦52%】	「実績値」が「期待値」の推移の±30%の範囲のもの
C 【0%<達成率<28%】	「実績値」が「期待値」の推移の-30%未満～「基準値」未満のもの
D 【達成率≦0%】	「実績値」が「基準値」以下のもの
評価なし	統計調査未実施、当該年度調査なし等により達成率の算出ができないもの

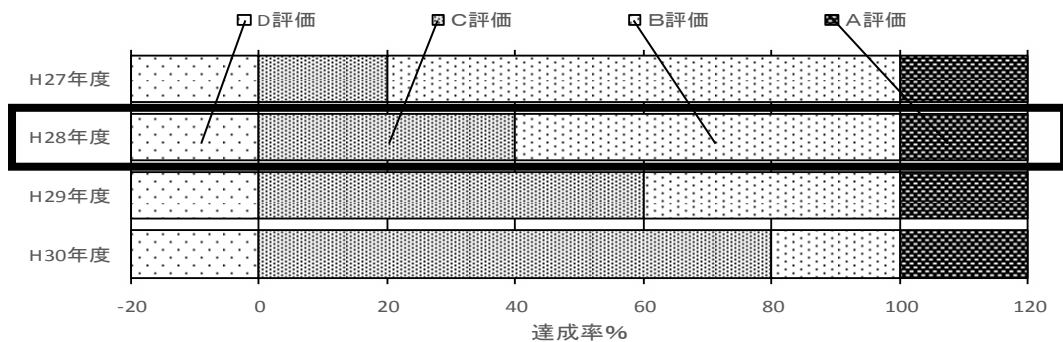
※期待値：計画最終年度（平成 31 年度）に目標を達成するものとして、基準値から目標値に向けて、各年均等に推移した場合における各年の数値
平成 28 年度期待値 達成率 40%（5 年中の 2 年目）

3 年度別評価と達成率の関係



- S : 100%以上
- A : SからBの間
- B : H27 期待値(20%)×±30%の範囲
: H28 期待値(40%)×±30%の範囲
: H29 期待値(60%)×±30%の範囲
: H30 期待値(80%)×±30%の範囲
- C : BからDの間
- D : 0%未満

参考（昨年度の4段階評価区分）



- A : 100%以上
- B : H27 期待値(20%)以上Aまでの間
: H28 期待値(40%)以上Aまでの間
: H29 期待値(60%)以上Aまでの間
: H30 期待値(80%)以上Aまでの間
- C : BからDの間
- D : 0%未満

島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略達成状況確認表

【基本目標1】 日本で、世界で、稼ぐ産業の創出

【今後の取組の方向性】

「陸・海・空」の交通拠点がネットワーク化した交通の要衝としての機能を活かし、観光、農林業、商工業の各分野を成長させ、日本で、世界で稼ぐ産業の創出に取組、就業者と就業の場を産み出していく。

施策の目標	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値 (H27年度末) <達成率>	期待値 (達成率 20%)	評価 (H27年度末)	実績値 (H28年度末) <達成率>	期待値 (達成率 40%)	評価 (H28年度末)	基本目標の評価	所管課		
1人当たり市民所得(県民所得との比率)	94.5% (H24)	1人当たり県民所得を上回る(100%)	95.6% (H25) <18.8%>	95.6%	B	94.6% (H26) <3.0%>	96.7%	C	【1人当たり市民所得】 ・基準値(H24) 94.5% (2,987千円/3,160千円)と比較し、94.6% (3,049千円/3,220千円)となり県との差が0.1%縮まった。しかし、前年度95.6% (3,117/3,262千円)と比較すると、県との差が1%開いた。 ・静岡県(322.0万円)、志太榛原中東連(314.8万円)より島田市は下回っているが、藤枝市(305.4万円)、焼津市(304.1万円)と比較した場合、ほぼ平均である。 ・島田市は県内35市町中、上から18番目となっている(藤枝市は17番目、焼津市は19番目)。 【市内総生産額】 ・基準値(H24)と比較し、市内総生産額は10億9千6百万円の減(-0.3%)であり、ほぼ横ばいであった。 ・横ばいであったが、大きく増加したものは、建設業の36億2千2百万円(15.1%)、林業の1億2千4百万円(33.8%)であり、大きく減少したものは不動産業の28億7千9百万円(-6.0%)、卸売・小売業の14億7千2百万円(-6.8%)、製造業14億2千5百万円(-1.4%)であった。 ・製造業の停滞は、平成20年のリーマンショック以降継続しており、リーマンショック以前の数値(H15~H19平均 1,204億4千2百万円)と平成26年度を比較すると-208億円(-17.3%)となっている。静岡県同様、製造業の停滞が市内総生産額の停滞の理由の一つと考えられる。	戦略推進課		
市内総生産額	3,416.91億円 (H24)	3,662.12億円 ※H20ペースにする	3,415.37億円 (H25) <基準値以下>	3,465.95億円	D	3,405.95億円 (H26) <基準値以下>	3,514.99億円	D				
具体的な施策	重要業績評価指標	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値 (H27年度末) <達成率>	期待値	評価 (H27年度末)	実績値 (H28年度末) <達成率>	期待値	評価 (H28年度末)	平成28年度中の取組、成果、要因	本年度の取組と今後の施策展開	所管課
(1) 高速交通網の拠点で稼ぐ												
・富士山静岡空港周辺のまちづくり ・新東名高速道路島田金谷インターチェンジ周辺のまちづくり ・地域資源を活かした企業誘致 ・交通拠点を活かした周辺基盤整備	新規企業立地件数	6件 H22~H26年度立地実績	5年間で11件	5件 <45.5%>	2.2件	A	7件 <63.6%>	4.4件	A	【新規企業立地件数】 2件(平成28年度) ・市内への企業立地を推進するため、市外企業への訪問や静岡県東京事務所と連携した企業訪問を実施した。また、市内遊休地等をホームページで公開し、情報提供を行った。	【新規企業立地件数】 ・昨年度に引き続き、市外企業の訪問や、静岡県と連携した企業訪問等を実施していく。また、市内企業の定着及び2次投資を図るため、市内立地企業(事業所)の訪問や本社訪問等を行っている。 ・島田金谷IC周辺の工業用地についても立地向けたPR活動を行っていく。	内陸フロントティア推進課
(2) まちの魅力を活かして、観光で稼ぐ												
・SLを活かした観光誘客の促進 ・川根温泉及び田代の郷温泉を核とした観光の推進 ・ニューツーリズムや歴史・文化資源を活用した新たな観光の推進 ・観光資源の有効活用とロケーション活動支援の充実 ・富士山静岡空港の海外渡航先からの外国人観光客の誘致 ・観光地域づくりと広域観光連携の推進	観光交流客数(年間)	276万人 (H25)	300万人	236万人 (H26) <基準値以下>	381万人	D	239万人 (H27) <基準値以下>	286万人	D	【観光交流人口】 ・平成28年度については、島田大祭や金谷茶まつりなどのビックイベントが開催されており、観光交流人口の増加に寄与している。 ・大井川鐵道株式会社の機関車トーマス号の運行に併せておもてなし事業の実施などについては継続して取り組んでいる。	【観光交流客数(年間)】 ・国内外からの誘客事業は継続性を持って実施していく。また空港就航先、首都圏、中京圏における国内からの誘客キャンペーンについても引き続き実施していくが、冊子「大井川で逢いましょう」のトーマス特集などについて、高速道路サービスエリアや首都圏地下鉄駅構内での配架など新たな取り組みを進め、交流人口の拡大を目指していく。 ・観光客の増加が著しい『蓬萊橋』において、島田の逸品を中心とした物販販売施設兼休憩所及び観光トイレ、観光案内所機能を併せ持った一体的な施設の整備を推進し、観光交流客数の増加を図っていく。	観光課
	宿泊者数(年間)	142,199人 (H25)	148,000人	183,901人 (H26) <100%≦>	143,359人	S	197,350人 (H27) <100%≦>	144,519人	S	【宿泊者数(年間)】 ・目標値は達成しているものの、前年度比8,414人の減となっている。主な要因としては中国人観光客の減少などが考えられるが、交通利便性の向上による日帰り観光客の増加も一因であると思われる。	【宿泊者数(年間)】 ・既存の観光施設に加え、蓬萊橋や島田金谷インターチェンジ周辺にぎわい交流拠点など、今後整備が進む拠点を加えた周遊型の観光メニューの検討など、宿泊も含め地域に長く滞在していただける仕掛けを検討していく。 ・観光を地域経済に結び付けていくため、観光、商業、農業に従事する事業者のマッチングを行うなど、「観光で稼ぐ」体制を構築していく。	
(3) 新たな付加価値による農林業で稼ぐ												
・茶の生産基盤の強化と消費拡大 ・6次産業化とブランド化の推進 ・地域農業の振興と地産地消の推進 ・多様な担い手の確保・育成 ・生産性の高い林業の実現	新規青年就農者数	2人	7人	3人 <20%>	3人	B	7人 <100%>	4人	S	【新規青年就農者数】 ・H28年度の新規就農者数は4人(2人+1夫婦)あり、それまでの新規青年就農者と合わせ7人(5人+1夫婦)となった。7人のうち3人+1夫婦に青年就農給付金の給付をした。	【新規青年就農者数】 ・就農相談の対応の他、認定新規就農者の認定をし、新規青年就農者を増加させる。	農林課
	担い手への農地集積率	38.2%	67.0%	38.4% <0.7%>	44.0%	C	39.8% <5.6%>	49.7%	C	【担い手への農地集積率】 ・H28年度に、認定農業者は1名減少したが、各々の経営面積が増加したことから集積面積合計は1,289haとなった。 ・認定農業者数：H28年度 391人、H27年度 392人、H26年度 388人、H25年度 380人	【担い手への農地集積率】 ・新たな認定農業者の増加を図り、それに伴い集積面積の増加を図っていく。	
	認定農業者数	388人	450人	392人 <6.5%>	400人	C	391人 <4.8%>	413人	C	【認定農業者数】 ・H28年度に、認定農業者の期間満了者85人のうち75人を再認定した(10人減)。17人新規認定したが、死亡等により8人の減となったため計1名の減となった。	【認定農業者数】 ・認定農業者の再認定の他新規認定者の開拓を行い、更なる増加を図る。	
	森林伐採面積(年間)	83.4ha	145.0ha	64.8ha <基準値以下>	95.7ha	D	122.7ha <63.8%>	108.0ha	A	【森林間伐面積(年間)】 ・H28年度に、「しずおか林業再生プロジェクト推進事業」により41.81ha、「森林環境保全直接支援事業」により20.19ha、合板・製材生産性強化対策事業により60.68haを間伐した。	【森林伐採面積(年間)】 ・補助金交付対象の条件となる、経営計画の策定や自立支援を引き続き行っていく。	
(4) 地域産業の競争力を高めるべく												
・地域産業の振興 ・商業・サービス産業の活性化 ・企業とのマッチング促進	新規創業者数	***	5年間で20件	4件 <20%>	4件	B	19件 <95%>	8件	A	【新規創業者数】 ・産業支援センターを開設し、創業希望者からの各種個別相談に対応するとともに、セミナーや交流会を企画・開催し、15件の市内創業者を輩出した。 ・市内で新たに創業する者、新産業に進出する者に対して経費の一部を補助するため、補助金を交付した。申請5件中、5件を採択(新規創業)	【新規創業者数】 ・昨年度の創業件数の増加と産業支援センターでの創業相談に対応できるよう、創業補助金の予算額を増額した。(200万円⇒300万円) ・本年度より補助額を減額し、より多くの事業者が利用できるようにしたことから、補助金説明会等を行うなど制度の周知に努める。	商工課
	販路開拓支援件数	***	5年間で500件	107件 <21.4%>	100件	B	287件 <57.4%>	200件	A	【販路開拓支援件数】 ・産業支援センターを窓口とした中小企業の販路開拓への相談機能を強化し、販路開拓事業費補助金を併せ、新規販路開拓を支援していく。 ・本年度より補助額を減額し、より多くの事業者が利用できるようにしたことから、補助金説明会等を行うなど制度の周知に努める。		
	中心市街地の1日当たり歩行者数	1,992人	2,100人	1,985人/日 <基準値以下>	2,014人	D	2,008人/日 <14.8%>	2,035人	C	【中心市街地の1日あたりの歩行者数】 ・平成28年12月におび通りを「都市公園化」し、手続きを簡略化することで、利活用を促進しており、週末にフリーマーケットや子供の体操教室など様々なイベントを開催している。	【中心市街地の1日あたりの歩行者数】 ・中心市街地活性化基本計画を策定し、人口減少社会に対応した持続可能なまちづくりにより中心市街地の賑わい創出を目指す。 ・おび通りの活用について、今後は、行政が主体となったイベントだけでなく、市民や事業者の皆さん自ら「活動の場」「発表の場」として、さらに利用していただけるよう、積極的に呼び掛けていく。 ・本通五丁目及びファイブ1階に音楽施設を設置し、音楽やダンスの練習の場を提供することでまちなかの賑わいを創出する。	

【今後の取組の方向性】
 島田市の個性や魅力を市内外に発信する取組であるシティプロモーション活動を「島田市緑茶化計画」の名のもとに戦略的に推進するとともに、情報発信や、移住体験などを通じて、実際に島田市を体験してもらう機会を創出し、新しい人の流れを作っていく。

【基本目標2】 島田市に住み、好きになる

施策の目標	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値 (H27年度末) <達成率>	期待値	評価 (H27年度末)	実績値 (H28年度末) <達成率>	期待値	評価 (H28年度末)	基本目標の評価	所管課		
社会移動	転出超過 (71人)	均衡	転出超過 (H27.1~12) (▲63人) <11.3%>	▲57人	C	転入超過 (H28.1~12) (17人) <100%≧	▲43人	S	【社会移動】 ・転入が転出を17人上回り、目標である転入・転出の均衡が実現した。 H25 (▲298人)、H26 (▲71人)、H27 (▲63人)、H28 (+17人) ・市の移住施策を利用した県外からの移住世帯 H27: 3世帯7人、H28: 28世帯65人	戦略推進課 地域づくり課		
島田市が好きな市民の割合	72.4% (18歳以上)	90.0%	72.4% (18歳以上)	75.9%	***	68.0% <基準値以下> (20歳以上)	79.4%	D	【島田市が好きな市民の割合】 ・基準値 (H26) より、4.4ポイント減少した。 ・減少が多い世代は40歳代と50歳代であり、それぞれ8.4ポイント、5.8ポイントの減少となった。 ・地区別では、大長地区と五和地区がそれぞれ、31.7ポイント、19.7ポイントの増加となったが、大津地区、川根地区において、それぞれ21.1ポイント、21.4ポイントの減少となった。			
具体的な施策	重要業績評価指標	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値 (H27年度末) <達成率>	期待値	評価 (H27年度末)	実績値 (H28年度末) <達成率>	期待値	評価 (H28年度末)	平成28年度中の取組、成果、要因	本年度の取組と今後の施策展開	所管課
(1) 移住・定住の促進												
・定住化の促進	移住・定住相談窓口を利用した県外からの移住件数	***	5年間で100件	3件 (7人) <3%>	20件	C	31件 (72人) <31%>	40件	B	【移住・定住相談窓口を利用した県外からの移住件数】 ・中山間地域のコミュニティの維持を図るため、特に子育て世代の移住・定住に加え、地域おこし協力隊の派遣を推進して、人口増加、定住促進を図る。また、全庁的な移住・定住専用のホームページの作成及び、県外からの移住・定住者に住宅購入に対する奨励金を交付し、市内全域への移住・定住を促進するため、以下の事業を行った。 ・島田市に住もう応援奨励金 県外から市内へ移住してきて、市内に住宅を取得する方を対象に奨励金を交付 実績11件 8,062,000円 ・移住体験モニターツアー 移住希望者に川根地区での生活を体験してもらい、移住の動機付け、きっかけとする目的でツアーを開催 実績4人 ・移住相談会への出席 首都圏で開催される「ふるさと回帰フェア」、「3県合同移住相談会」、「ふじのくにに住みかえる移住相談会」などに市のブースを出展し、来場者に市のPRを行うとともに、移住希望者の相談に対応。 出展回数 6回 ・移住・定住ポータルサイトの作成 移住・定住に関する情報をまとめたポータルサイト (平成28年6月公開) ・県外からの移住者65人 (平成28年度において県内2番目に多い)	【移住・定住相談窓口を利用した県外からの移住件数】 ・地域おこし協力隊の協力を得ながら移住・定住ポータルサイトを充実させ、情報発信力の強化を図る。(平成28年6月公開) ・民間不動産業者の管理する物件と市の空き家バンク登録物件を網羅した不動産情報サイトの登録件数の増加を図る。(平成28年6月公開) ・NPOまちづくり川根の会と連携し、川根地区の空き家情報の掘り起こしを引き続き進める。 ・首都圏開催の移住相談会に積極的に出展し、潜在的な移住希望者へのPRと、真剣に希望している者への相談対応、情報提供に努める。	地域づくり課
(2) シティプロモーションによるまちの魅力創造												
・シティプロモーションの推進	市民幸福度の向上	6.3点	7.0点	6.4点 <14.3%>	6.4点	B	6.4点 <14.3%>	6.6点	C	【シティプロモーションの推進】 ・島田市ブランドデザインアドバイザー業務委託 島田市緑茶化計画のブランドデザインとロゴを手掛けた事業者とアドバイザー契約を締結し、ブランド統括とともに、市民や市内民間事業者、茶業青年団を交えてのワークショップを開催、プロモーション動画やコンセプトブックの制作、ブランド茶の開発など、島田市緑茶化計画を推進していくための検討を行った。 ・島田市緑茶化計画プロモーション動画事業 島田市の魅力を市内外に発信するため、プロモーション動画の作成や動画コンテストを行い、市ホームページやYouTube、映画館で紹介するなど、情報発信を行った。 ・島田市緑茶化計画コンセプトブック印刷製本 「島田市緑茶化計画」について、市民への理解促進を図るため、緑茶化計画の概要、イメージ図などをわかりやすく掲載したコンセプトブックを制作し、市内全戸に配布し、緑茶を愛することからはじまる「市民参加型シティプロモーション」の促進に努めた。 ・テストマーケティング事業 シティプロモーションの一環として開発したブランド茶のテストマーケティングを目的として、都内の大型雑貨店にて期間限定アンテナショップを出展し、リーフ茶離れが進む若年層に島田市の緑茶の魅力を提案するなどして訴求を図った。	【シティプロモーションの推進】 全庁的な観点からの情報収集・発信等による都市ブランド化の仕組みづくりや、各産業分野でバランス良く底力を高め、一層の厚みを持たせるための個別地域資源のブランド化の構築に全市一体で取り組む。 ・体験交流プログラムの開発 ・ブランド茶の販売体制の確立 ・動画コンテストの開催 ・緑茶化応援補助金の交付 (島田市緑茶化計画広報用物品製作費補助金) ・広告事業の実施 (TVCM、シネアド、新聞ほか) 今後は「島田市緑茶化計画」の海外・国内・市内への具体的展開及び市民や事業者など民間の動きを活性化させるための方策を検討し、各事業を推進していく。	広報課

【基本目標3】 希望どおり結婚、妊娠、出産し、子どもをまんなかに子育てする

【今後の取組の方向性】
 切れ目のない支援により、希望どおり結婚し、妊娠、出産、子育てができる社会環境の実現を図るとともに、子どもをまんなかに捉えた視点に立ち、子育てを地域全体で支援する子育てしやすいまちづくりに取り組んでいく。

施策の目標	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値 (H27年度末) <達成率>	期待値	評価 (H27年度末)	実績値 (H28年度末) <達成率>	期待値	評価 (H28年度末)	基本目標の評価	所管課		
合計特殊出生率	1.51 (H24)	1.60	*** <県において期間で算出、公表は平成31年度>	1.53	***	*** <県において期間で算出、公表は平成31年度>	1.55	***	【合計特殊出生率】 *****	戦略推進課		
具体的な施策	重要業績評価指標	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値 (H27年度末) <達成率>	期待値	評価 (H27年度末)	実績値 (H28年度末) <達成率>	期待値	評価 (H28年度末)	平成28年度中の取組、成果、要因	本年度の取組と今後の施策展開	所管課
(1) 出逢い、恋して、結婚する												
・出逢い力の創造 ・出逢いの場づくり	婚姻率 (人口千人当たり)	4.63人	5.00人	4.11人 <基準値以下>	4.70人	D	3.87人 <基準値以下>	4.78人	D	【出逢いの力創造・出逢いの場づくり】 ・結婚に対する意識付けを独身者に行うと共に、独身者の親等家族を巻き込み、地域全体で結婚に対する支援をおこない、「島田に住んで子どもを育てる」きっかけとするため、以下の事業を実施した。 ・出逢いのチカラ塾 島田市在住又は在勤の独身男女 (25歳〜40歳) に出逢いの機会 (婚活) を有意義なものにするため、「出逢うための力」の講座を実施した。 講座申込者 男性21名、女性24名、計45名 ・婚活活〜親だからできるわが子の婚活交流会〜 地域おせっかい人養成講座修了者を中心に結成した結婚支援ボランティア「島田おせっかい人サロン」と協働し、親同士で子どもの情報を持ち寄り交流会を実施し、その後、親を通して独身の男女が気軽に会うきっかけづくりを行った。 参加者51組 その後の交流 (マッチング) 17組成立 ・婚活イベント 趣味のあう人同士でマッチングできるようスポ婚、Book婚等様々な婚活イベントを実施した 参加者 男性71名、女性62名 マッチング (カップル) 成立20組	【出逢いの力創造・出逢いの場づくり】 ・島田市は他市と比較し、第2子の出産割合は高いが、婚姻率が県平均より低くなっている。(婚姻率島田市：4.6、県平均5.4、全国平均5.5/人口動態健康所・市町村別等統計 (H20〜24)) ・平成28年度まで独身者に「出会うための力」講座を実施していたが、講座参加者が固定化してきたため、本年度は婚活イベントを中心に実施する。地域で婚活イベントを実施しているボランティア団体等と連携をし、結婚支援事業の参加者にボランティア団体が実施しているイベントを紹介し、結婚を希望する独身者に様々な出会いの機会を提供していく。 ・平成29年度の事業実績を踏まえ、事業内容の見直しを図る。	子育て応援課
(2) 妊娠、出産する												
・妊娠・出産に関する正しい知識の普及と相談体制の確保 ・不妊に悩む方への支援 ・妊娠・出産に向けての支援	妊娠11週までの妊婦届けをした妊婦の割合	95.8%	98.0%	95.1% <基準値以下>	96.2%	D	94.2% <基準値以下>	96.7%	D	【妊娠・出産に関する正しい知識の普及と相談体制の確保】 ・妊娠・出産のための健康づくり事業『いつか』のために「いまから」できることが県事業として計画された。市内の高等学校に事業の周知を行い、金谷高校で2年生113人に対し実施した。実施日には市で作成したパンフレットをあわせて配布し、普及啓発を行った。 ・社会教育課主催の事業、中学生体験講座「あかちゃんふれあいタイム」を初倉中学校で実施した。出産適齢期や子育てについての講話と講座のサポートを行った。 【不妊に悩む方への支援】 ・不妊治療を受ける夫婦の経済的負担を軽減し、医療保険適応外の一般不妊治療や特定不妊治療に要する費用の一部について助成を行った。 一般不妊治療申請者 22組、22件 (交付決定22件) 特定不妊治療申請者 80組、116件 (交付決定130件) 【妊娠・出産に向けての支援】 ・母子健康手帳交付時にマイ支援センター登録を促した。 ・子育て世代包括支援センター「てくてく」専任の相談員を配置し、妊娠期から子育て期にわたる支援を行った。	【妊娠・出産に関する正しい知識の普及と相談体制の確保】 ・県と協同し、継続して妊娠・出産のための健康づくり事業を予定。学校・事業所などに事業をPRし啓発していく。今後も引き続き事業を見直していく。 ・H29年度は中学生体験講座を六倉中学校と初倉中学校で実施予定。赤ちゃんとのふれあいを体験を通して、妊娠や出産についての知識の普及と、子育ての楽しさや子どもとの愛着形成が伝わるように展開していく。 【不妊に悩む方への支援】 ・制度について見直しを行いながら、今後も引き続き費用の助成を行う。 ・新たに平成29年度から、不妊症の検査と治療に要する費用の助成を行う。 【妊娠・出産に向けての支援】 ・子育て世代包括支援センター「てくてく」を中心に、妊娠期からの支援やサービスの拡充を図る。 ・子育て世代包括支援センター「てくてく」を中心に、地域の相談拠点である地域子育て支援センターとの協同講座を行う。助産師相談の開設や、地域の相談拠点である地域子育て支援センターとの協同講座を行う。	健康づくり課
(3) 子どもをまんなかに子育てする												
・子育て施設の整備 ・子育て支援体制の充実 ・妊娠・出産・子育てに対する負担の軽減 ・親と子どもの健康の確保及び増進 ・地域・社会全体で子育てを支える機運の醸成	保育所等の待機児童数 (4月1日現在)	4人 (H26.4.1)	0人	11人 (H27.4.1) <基準値以下>	3.2人	D	24人 (H28.4.1) <基準値以下>	2.4人	D	【保育所の待機児童数】 ・新制度がスタートしたことにより保育所等の入所要件が緩和され待機児童数が増加した。少子化によりこどもの人口は減少していくものの保育需要は高い。今後もこの傾向が続くと推測され、受け入れ人数を増やすために、新規保育所の施設整備 (1園) と、幼稚園の認定こども園化の施設整備 (1園) に着手した。 【放課後児童クラブの待機児童数】 ・H27年度末に第二小 (15人増)、第四小 (15人増) の拡張工事を実施し、H28年度から川根小 (20人) を新設した。また、H28年夏季休業中に初倉南小 (24人増) の拡張工事を実施した。 ・放課後児童クラブは、継続的に定員拡張を続けているが、新規・継続利用とも希望する児童の割合が上昇したことにより、クラブ申し込み児童数が増加し、一部の放課後児童クラブにおいて待機児童が発生した。	【保育所の待機児童数】 ・新規保育所 (島田ゆりかご保育所) が10月に開園する。平成30年4月開園に向け、島田学園付 園幼稚園、島田中央幼稚園、五和幼稚園において、認定こども園化に伴う施設整備を進めている。 ・また、六倉 初倉地区の待機児童解消のため、小規模保育園を2か所程度設置していく。 ・以上の取り組みにより、平成30年4月に、待機児童数は0となることを予定している。	保育支援課
	放課後児童クラブの待機児童数	0人	0人	3人 <基準値以下>	0人	D	31人 (H28.4.1) <基準値以下>	0人	D	【放課後児童クラブの待機児童数】 ・今後も利用児童数の増加が予想されることから、受け入れできる体制作りが急務である。このため、学校内の余給教室の有効利用、随後施設の借用等とともに、保育園等への民間委託を視野に入れた拡大を進める。	子育て応援課	
(4) 豊かな心をもった子どもを育成する												
・個に焦点を当てた授業の推進 ・多様な体験活動の充実 ・子どもたちの成長を支える連携した教育の推進 ・安心・安全な学校づくり	学校が楽しい児童	89%	95%	91.0% <33.3%>	90.2%	A	90.0% <16.7%>	91.4%	C	【個に焦点を当てた授業の推進】 ・個に焦点を当てた授業の具体を示すため、小学校、中学校から、それぞれ一校ずつ選び、教育方法研究委員によるモデル授業を行った。 【多様な体験活動】 ・伝統文化の体験や地域交流、福祉体験など、各学校や教育センターが独自の、子どもの夢や地域愛を育む教育活動を行った。	【個に焦点を当てた授業の推進】 ・平成28年度の成果と課題を受けて、個に焦点を当てた授業についての構想図を見直ししていく。あわせて、個に焦点を当てた授業の実践を重ねる中で、市内の小中学校に浸透させていく。 【多様な体験活動】 ・子どもたちの夢を育て、地域を愛する豊かな体験活動をより一層推進していくために、「夢育・地育推進事業」を展開していく。また、「夢育・地育推進事業」をより一層推進して行くために、「夢育・地育」の指定研究を行い、グローバルな視点を持ったコミュニケーション能力の育成、地域資源の活用と連携、小中学校が連携した教育の推進を図っていく。	学校教育課
	学校が楽しい生徒	86%	90%	90.0% <100%>	86.8%	S	88.0% <50.0%>	87.6%	B	【子どもたちの成長を支える連携した教育の推進】 ・保育所・幼稚園と小学校、小学校と中学校で、それぞれ円滑な連携が図れるように、研修会や情報交換会を実施した。 ・教育相談員を増やし、配慮を要する児童・生徒に対してより充実した対応ができるようにした。 【安心・安全な学校づくり】 ・スクールソーシャルワーカーの支援時間を増やし、配慮を要する児童・生徒に対して各々の置かれた環境に対し、より充実した対応を行うことができた。 ・「島田市いじめ防止基本方針」を策定し、いじめ問題に組織的かつ、迅速に対応できるようにした。	【子どもたちの成長を支える連携した教育の推進】 ・教育センターの機能の充実に図り、配慮を要する児童生徒について、学校・外部機関・家庭との連携を図れるよう支援体制を整えていく。 ・保育所・幼稚園・こども園と小学校、小学校と中学校で、それぞれ円滑な連携が図れるように、研修会や情報交換会を実施していく。 【安心・安全な学校づくり】 ・スクールソーシャルワーカーについて、県事業と連携し、派遣時間数を増やすことで、配慮を要する児童生徒や学校に対してより細やかな対応ができるようにしていく。 ・スクールソーシャルワーク事業を推進する中で、教員が福祉的な視点を持って、児童生徒理解を図ることができるようしていく。	

【今後の取組の方向性】
市民の健康と命を守るために、医療、介護、予防、住まい及び生活支援が一体的に提供できる地域包括ケアを推進するとともに、社会全体で健康づくりのための環境を整えて、健康寿命を促進し、暮らしやすいまちづくりに取り組んでいく。

【基本目標4】 水と緑に囲まれた健康長寿の暮らしやすいまちづくり

施策の目標	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値 (H27年度末) <達成率>	期待値	評価 (H27年度末)	実績値 (H28年度末) <達成率>	期待値	評価 (H28年度末)	基本目標の評価	所管課		
島田市の住みごこちが良いと感じる市民の割合	84.6%	90.0%	84.9% <5.6%>	85.7%	C	84.1% <基準値以下>	86.8%	D	【島田市の住みごこちが良いと感じる市民の割合】 ・基準値と比較し、H27年度は0.3%の増で進捗率5.6%、H28年度は0.5%の減で基準値以下となり、基準値付近から抜け出せていない。 ・内訳は「住みよい」が19.6%、「まあ住みよい」が64.5%であり、「住みよい」が前年度(24.44%)と比較し、4.8%の減となった。 ・一方、「やや住みにくい」、「住みにくい」がH28年度14.6%、H27年度14.1%、H26年度13.5%、H25年度13.0%と、1年で平均0.5%ずつの増となっている。	戦略推進課		
具体的な施策	重要業績評価指標	基準値 (H26)	目標値 (H31)	実績値 (H27年度末) <達成率>	期待値	評価 (H27年度末)	実績値 (H28年度末) <達成率>	期待値	評価 (H28年度末)	平成28年度中の取組、成果、要因	本年度の取組と今後の施策展開	所管課
(1) 健康長寿の促進												
<ul style="list-style-type: none"> 健康の保持増進と食育の推進 高齢者の健康・生きがいづくりと社会参加の促進 スポーツの振興 生涯学習の振興 	お達者度(男性)	県内10位 参考:17.74年(H24)	県内1位 参考:県内1位19.49年(H24)	県内11位 17.87年(H25) <7.4%>	8位	D	県内8位 18.27年(H26) <7.4%>	6位	C	【健康の保持増進と食育の推進】 ・第2次島田市健康増進計画及び第2次島田市食育推進計画に基づき、健康の保持増進と生活習慣病の発症予防及び重症化予防、共食の推進を重点に保健事業を実施した。また関連団体等と連携し食育の普及啓発を図った。さらに健康無関心層を取り込み、市民の健康寿命を伸ばすための施策として「健幸マイレージ」を実施した。 ・マイレージ参加者755人(2期)+165人(団体戦)、応募件数1,863件 ・健康づくりセミナー6回95人、健康教育53回1,373人、健康相談317回 3,788人、訪問指導115回110人、住民組織の育成72回1,804人、離乳食講習12回301人他	【健康の保持増進と食育の推進】 ・引き続き、第2次島田市健康増進計画及び第2次島田市食育推進計画に基づき、健康の保持増進、生活習慣病発症予防、重症化予防の取り組みを実施していく。減塩対策を強化した健康づくりセミナーの開催や、出前講座等の地域や組織での健康教育事業、相談事業の実施、関連組織と連携した普及啓発を図っていく。第3次計画策定に向けた準備を平成29年度から行う。 ・また、今後は若い世代への健康づくりや食育の推進を強化し、過度な痩せなどの予防と健全な栄養保持の普及啓発を図る。 ・健幸マイレージは、今後も参加者拡大に努め、市民の健康意識の向上や幸福感の向上のための事業を展開していく。また民間との連携を語り、住民主体の事業となるように努める。	健康づくり課
	お達者度(女性)	県内6位 参考:21.40年(H24)	県内1位 参考:県内1位22.05年(H24)	県内6位 21.35年(H25) <基準値以下>	5位	D	県内6位 21.55年(H26) <基準値以下>	4位	D	【高齢者の健康・生きがいづくりと社会参加の促進】 ・健康活動・教養活動・地域活動を実施している老人クラブ活動を推進するため、島田市老人クラブ連合会及び単位老人クラブ62団体へ、補助金を交付した。 ・金谷生きがいセンター夢づくり会館にパワーリハビリテーション用マシンを設置した。 ・身体機能の維持・向上を目的にプラザおふるい・夢づくり会館でシニアトレーニングルーム開放事業を開催した。 ・元気な高齢者の社会参加を促すためのガイドブック「ボランティアガイド」を作成し公共施設等に配架した。 ・地域のボランティアが中心となって運営する「地域ふれあい事業」を55団体で実施した。	【高齢者の健康・生きがいづくりと社会参加の促進】 ・島田市老人クラブ連合会及び単位老人クラブの活動を支援し、クラブ数及び会員数の増を図り、健康・生きがいづくり等を促進していく。 ・パワーリハビリ教室事業を実施するとともに、指導員を養成し高齢者相互の支え合い体制づくりを促進する。 ・介護予防サポーター養成講座などで介護予防の担い手となるボランティアの育成に努める。 ・脳の健康度テスト(ファイブコグ)を実施し、認知症予防を推進していく。 ・「ボランティアガイド」を様々な場面で利用し、高齢者の社会参加の促進していく。 ・地域ボランティアの協力を得ながら、今後も継続して地域ふれあい事業を実施し、介護予防、認知症予防を推進していく。	長寿介護課
	健幸マイレージに取り組んだ人数	329人	2,000人	713人 <23.0%>	663人	B	755人 <25.5%>	997人	C	【スポーツの振興】 ・ニュースポーツの普及の為、教室を69回開催し、1,215人の参加があった。 ・また、今年度から子育て世代の若いお母さん方を対象とした託児つき「ママさん教室」を実施し、好評を得た。	【スポーツ振興課】 ・参加者の増加を図るため、既存の種目を見直し、より魅力的な種目を発掘し、指導者に対し研修を行った上で教室に導入する。 ・平成29年度から新種目の「ワンバウンドふらば〜る」教室を新規で実施する予定。 ・平成28年度に好評を得た「ママさん教室」は、当面継続して実施していく予定。	スポーツ振興課
	生涯学習の振興									【生涯学習の振興】 ・社会教育施設において、生活習慣の改善のための啓発や講座実施に取り組んだ。 ・介護予防健康教室、ストレス解消講座、料理教室(うす味レシピの食卓講座、男の料理教室等)、ヨガ体験、3日体操等 ・生涯学習活動を行う市民が集まり、発表と交流ができる場を創出した。(公民館まつり等、金谷宿大学成果発表会、フェスタしまだの開催) ・公民館等主催講座修了生による自主活動グループの立ち上げを支援した。	【生涯学習の振興】 ・各課、市内事業者等と連携して、健康増進など身近なテーマで生きがいを増進させる講座の開設をする ・各種講座を通じて、望ましい食習慣や食生活が身につくよう支援していく。また、食や運動について楽しく学びながら仲間づくりを促していく。 ・学習成果の発表と交流の場を創出し、市民の学習意欲の高揚と施設の利活用の向上を図る。 ・市民の自主的な活動グループの立ち上げを支援する。	社会教育課
(2) 地域包括ケアの推進												
<ul style="list-style-type: none"> 救急医療体制の維持 島田市民病院における医療体制の充実と新病院建設事業の推進 在宅医療の整備 包括的なサービス提供のための取組 地域で支える仕組みづくり 	居場所づくり事業実施箇所数	10箇所	60箇所	18箇所 <16.0%>	20箇所	B	23箇所 <26.0%>	30箇所	C	【居場所づくり事業実施箇所数】 ・居場所の周知のため、地区社協や自治会に対して説明を行うとともに、各地区で行っている活動について聞き取り調査を行った。	【居場所づくり事業実施箇所数】 ・実績値は市が把握しているものの数であり、実際には地域住民が主体的に開設しているものもあるため、今後、島田市社会福祉協議会等と連携して把握に努める。 ・ホームページに居場所の一覧を掲載し、居場所の周知を図る。 ・居場所を実施している団体から相談を受けたり、居場所の開設に対するアドバイスを実施し、既存の居場所の継続や、新規居場所の開設を促す。 ・長寿介護課が所有するレクリエーション物品の貸与し、活動の選択肢を増やし、継続を図る。	長寿介護課
	地域高齢者見守りネットワークづくりの協力事業所数	63事業所	164事業所	97事業所 <33.7%>	83事業所	A	108事業所 <44.6%>	103事業所	B	【地域高齢者見守りネットワークづくりの協力事業者数】 ・市内事業所を戸別訪問し、事業の趣旨を説明するとともに、協力事業所としての登録を依頼した。 ・協力事業所連絡会を年に2回開催し、高齢者の見守りに必要な知識習得のための研修を実施した。	【地域高齢者見守りネットワークづくりの協力事業者数】 ・市内事業所を戸別訪問し、協力事業所数の増加に努め、ネットワークを広げていく。 ・協力事業所連絡会を開催し、高齢者の見守りに必要な知識習得のための研修を実施する。	
	在宅看取り者数(自宅死亡者数(率))	18.8%(H25)	20.0%	17.7%(H26) <基準値以下>	19.0%	D	19.2%(H27) <33.3%>	19.3%	B	【自宅看取り者数(自宅死亡者数(率))】 ・自宅での看取り者数は、222人(H27)である。 ・多職種からなる島田市地域ケア会議を開催し、「在宅医療・介護連携相談支援窓口」の開設等について協議を行った。 ・リビング・ウイイル島田版の普及啓発を行った。 ・在宅医療と介護の連携を推進するため、市民向け講演会や多職種合研修会等を開催した。	【自宅看取り者数(自宅死亡者数(率))】 ・平成29年度から開設した「在宅医療・介護連携相談支援窓口」を周知し、在宅医療と介護の連携のためのネットワークを構築する。 ・在宅医療を提供する医師の負担を軽減するため、「主治医不在時のバックアップ体制」「医療材料調達システム」等を推進する。 ・リビング・ウイイル島田版について市民への普及を図る。	包括ケア推進課
(3) 住民生活を支える公共交通基盤の整備												
<ul style="list-style-type: none"> 公共交通網等の充実 民間鉄道による移動手段の確保 	コミュニティバス利用者数(年間)	369,957人	370,000人	379,717人 <100%=>	369,966人	S	256,865人 <基準値以下>	369,974人	D	【コミュニティバス利用者数(年間)】 ・H27年度にバス路線の見直しを行いH28年度から運行を開始した。運行本数の減、時刻の変更等の理由から、利用者数が大幅に減少したため、一部の路線において時刻の調整を行った(H29年度から運行開始)。	【コミュニティバス利用者数(年間)】 ・回数券の販売やコミュニティバスに市民が自由に乗車できるイベント、出前講座の開催、広報掲載などのPR活動も行う。利用者の増加に努めている。 ・アンケートや毎月報告される利用者数の動向を考察し、時刻や路線の微調整を行う。	生活安心課